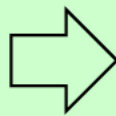


畑地かんがい用水を最大限に活かした栽培技術の確立に挑戦し、環境にも配慮したメガ茶産地を創出～志布志市茶業振興会～

経営体の概要

設立年度：平成18年
 基幹作物：茶
 作付面積：約861ha※
 生産者：－



現在：平成27年
 基幹作物：茶
 作付面積：約992ha※
 生産者：145戸

取組の経緯と経営転換のポイント等

以前は、霜害により生産・品質の不安定が課題。また、芝からの品目転換という地域的な課題も顕在化。その後、実証ほの成果等を踏まえ、生産拡大に取り組むことを決定。

事業により畑地かんがい用水が確保され、平成19年より通水開始。平成18年に設立された振興会では、多目的利用も含めて積極的な水利用を実践することで、栽培面積を平成18年から10年間で約1.2倍の約992ha※へ拡大し、県内第2位のメガ産地を創出。

※：旧有明町の栽培面積。

営農改善のポイント

①作物の変化

水利用による防霜で凍霜害を回避。早生品種の導入が可能となり産地規模が拡大。秋芽と新芽の防霜による新芽生育の不揃い防止等で生産と品質も安定。

②栽培技術の確立・向上

節水技術確立で急激な面積拡大に伴う水不足による霜害不安を解消。

平成21年度設置のIPM研究会による畑かんを活用したクワシロカイガラムシの防除などのIPM技術の確立で、農薬費を1/4以下に削減。近年は、蒸気除草機導入にも取組。

平成24年度に環境保全型農業コンクールで大臣賞を受賞。

適採時期のかん水保冷による生育の抑制で茶工場操業の平準化も実現。

③流通・販売の工夫

安心な高品質緑茶や発酵茶への取組の他、輸出を目指して海外のポジティブリストに対応出来るサプライチェーンの構築に向けて実証等にも取組。

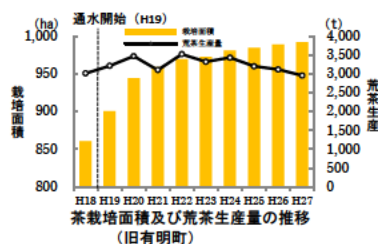
事業概要

事業種：かんがい排水事業
 関係市町：鹿児島県鹿屋市、志布志市、大崎町
 受益面積：4,000ha
 事業期間：平成元～20年度（機能監視：23年度）
 事業目的：畑地かんがい
 主要工事：ダム1箇所、揚水機場8箇所、用水路95.1km

位置図（鹿児島県）



茶団地の様子



防霜の様子

<問い合わせ先>

九州農政局
 農村振興部農村環境課
 電話：096-211-9681
 （内線：4666）

（平成28年度調査時点）